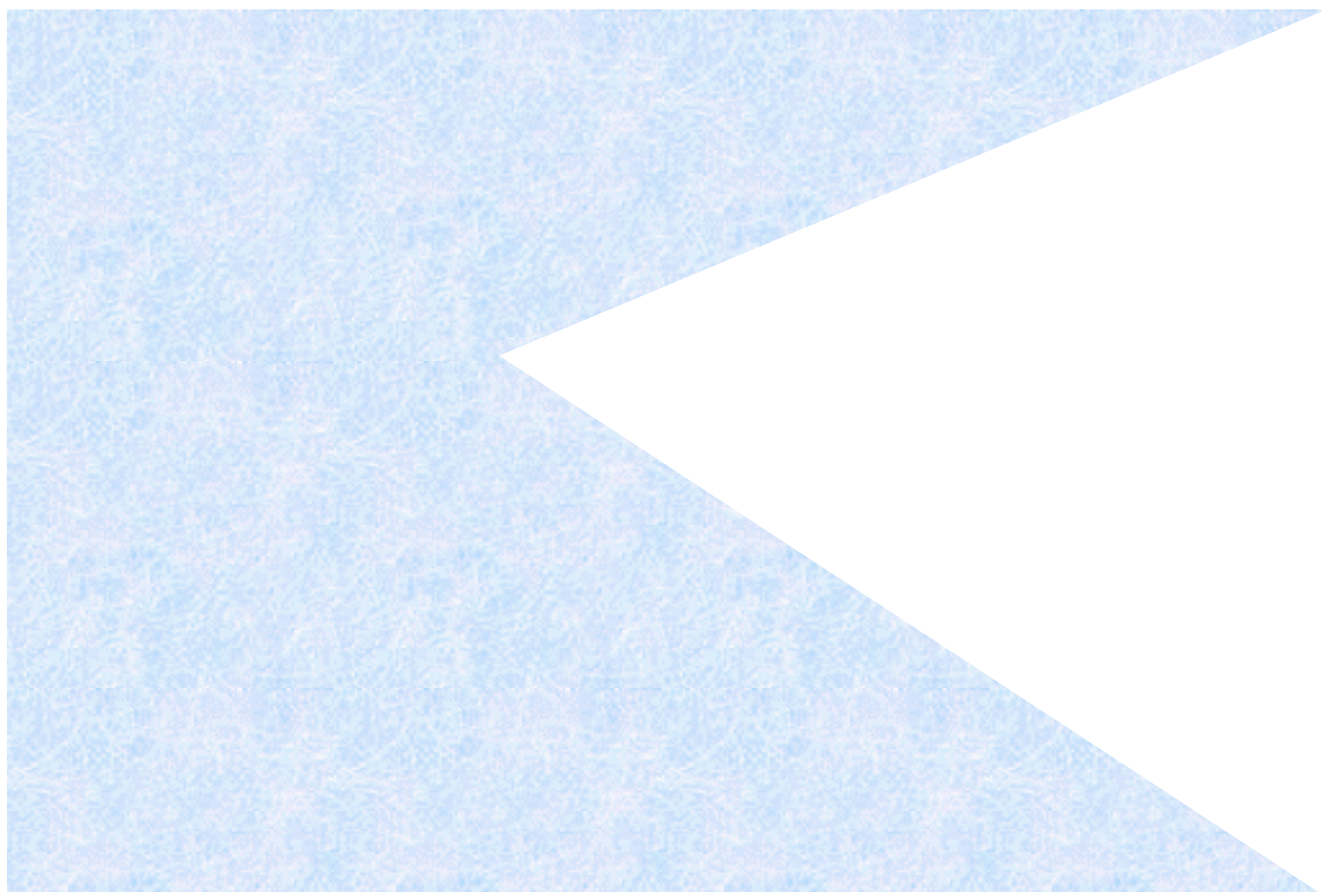


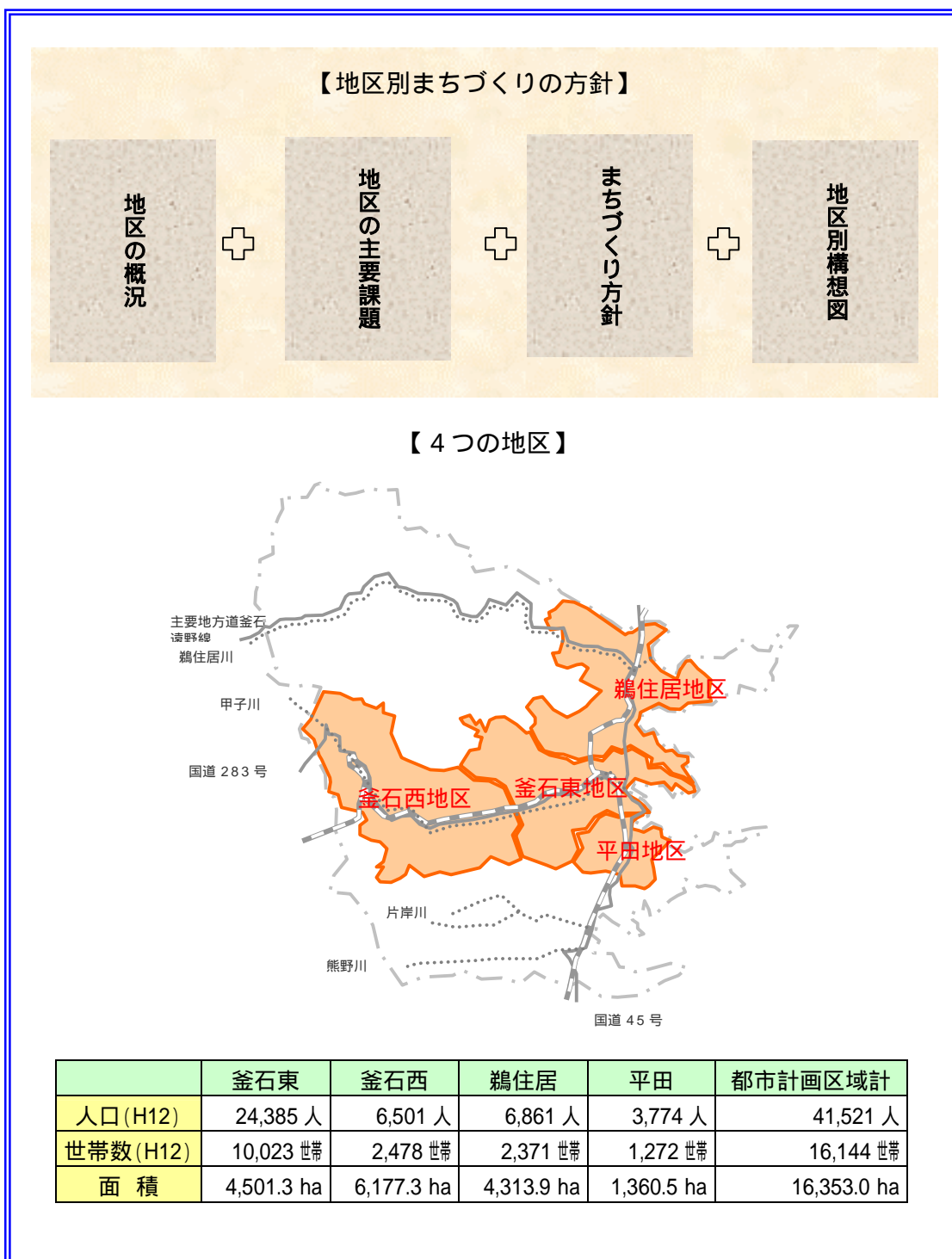
6. 地区別まちづくりの方針



6

地区別まちづくりの方針

市街地特性などを考慮して本市の都市計画区域を4つに区分し、それぞれの地区ごとにまちづくりの方針を定めます。





釜石東地区

釜石東地区の概況

- ・本地区は、釜石湾に面し、甲子川沿いの平坦地に市街地が形成されており、本市の特色である製鉄業が興隆した地域です。
- ・全市の 50%以上の人口が集積していますが、人口減少や高齢化が著しく進んでいます。
- ・地区東側には、製鉄関連工業施設だけでなく、商業、流通・運輸、教育・文化、行政などの都市機能が集積し、古くから中心市街地が形成されています。また、沖合は世界有数の漁場であり、湾岸には魚市場や水産加工施設が立地し、“鉄と魚のまち”を象徴する地域となっています。
- ・企業所有地の大規模な低未利用地もみられます。
- ・地区西側や釜石湾南側は、主に住宅市街地が形成されています。釜石湾南側には、鉄の歴史館や釜石大観音といった観光施設も立地しています。
- ・南北方向の国道 45 号と東西方向の国道 283 号が T 字型に交わる地域であり、釜石駅も J R 釜石線と J R 山田線・三陸鉄道南リアス線との乗り換え駅であるように、交通利便性に恵まれた地域です。
- ・釜石湾では、臨港地区として良好な港湾機能の形成を目指した整備や漁港機能の高度化を目指した整備が進められています。また、鈴子地区における釜石駅周辺整備事業や、地区西側における三陸縦貫自動車道の整備など、新たな本市の骨格を形成する事業が進められています。



<主なデータ>

	釜石東	都市計画区域	市全域	
人口(H12)	24,385 人	41,521 人	46,521 人	
世帯数(H12)	10,023 世帯	16,144 世帯	17,706 世帯	
人口増減率(H7-H12)	8.2%	5.8%	5.9%	
高齢化率(H7)	22.7%	21.1%	21.4%	
人口密度(H12)	5.4 人/ha	2.5 人/ha	1.1 人/ha	
単独世帯率(H7)	26.0%	23.0%	21.8%	
住宅所有 (H7)	持ち家	59.5%	62.5%	65.4%
	民営借家	25.8%	20.2%	18.7%
	給与住宅	8.0%	7.5%	6.9%

資料：国勢調査（H7、H12）



釜石東地区の主要課題

本市の新しい顔づくり

釜石駅前周辺(鈴子地区)において一体的な基盤整備が進められていることから、商業施設等の集積をはじめ市庁舎の移転などにより、本市の新しい顔となる中心拠点の形成が求められています。

低未利用地の土地利用

工業系用途地域と臨港地区に指定されている中番庫等の大規模な低未利用地は、港湾の機能と一体となった計画的な土地利用の実現が望まれています。

中心市街地の活性化

本地区東側の中心市街地は、主要地方道釜石港線沿道や国道 283 号沿道の商業地において、空き店舗や商業施設、住宅や主要な施設の老朽化がみられることや、人口の減少や高齢化も進んでいることから、にぎわい空間の創造や「まちなか居住」を進めながら、中心市街地の活性化が必要な状況になっています。

既成市街地の魅力化

戦災復興事業で整備された市街地の大部分は、道路幅員がそれほど広くなく、歩行者空間も十分に確保されていない状況があることや、産業都市として整備されてきた側面が強いため、まちにうるおいは少なく、みなとまちとしてのイメージや来街者をもてなす施設づくりはほとんどみられないため、地域の特色を活かした魅力づくりが必要となっています。

主要施設の建替え等の促進

市庁舎をはじめ魚市場の整備検討や小中学校の統合が進められており、主要施設の適正な更新と、それぞれの移転跡地等の有効活用が求められています。

釜石東地区のまちづくりの目標

「釜石の顔として魅力のあるまちづくり」

釜石東地区のまちづくり方針

土地利用の誘導方針

- ・釜石駅周辺（鈴子地区）の基盤整備を推進するとともに、商業施設や市庁舎移転等の集積促進を図り、本市の新しい顔となる中心拠点の形成を目指します。
- ・中番庫地区において、新たな産業拠点の形成を目指した土地の有効活用を促進します。
- ・港湾地域において、物流機能の充実とともに、新しい魚市場の整備やレクリエーション空間整備等を進め、市民も親しめる魅力的なみなとづくりを目指します。
- ・陸中海岸国立公園等の豊かな山林や海岸の保全を図るとともに、市街地景観に潤いを与えている背後の山林や甲子川の保全を図ります。

道路・交通システムの整備方針

- ・三陸縦貫自動車道の整備促進とともに、市街地とを結ぶ釜石インター1号線・2号線の整備を推進します。また、未整備の都市計画道路の整備を進めるとともに、ユニバーサルデザインの考えを基に、歩行空間の整備に努めます。
- ・中心市街地や拠点施設において計画的な駐車場整備を進め、密集市街地においては、規制・誘導手法の検討を含めて狭隘道路の解消に努めます。
- ・鉄道やバス利用の公共交通機関利用の促進を目指し、釜石駅などの駅舎やバス停のバリアフリー化などを進めます。また、甲子川沿岸の遊歩道整備を推進するとともに、歩行者優先道路の整備についても検討し、釜石駅周辺と市街地を結ぶ快適な歩行ネットワークの形成に努めます。

都市景観形成の誘導方針

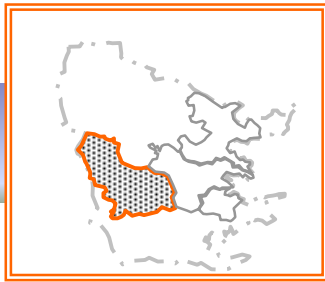
- ・中心市街地の主要地方道釜石港線沿道等におけるみなとまちのイメージづくりや、アイストップ等を活用した魅力的な市街地景観づくりを誘導します。
- ・港湾施設などの産業施設のライトアップ等による魅力化を検討するとともに、海から眺める美しい望港景観の実現を図ります。

住まい・まちづくりの誘導方針

- ・まちなか居住を促進する住宅の供給を促進します。
- ・釜石港湾口防波堤の整備や避難場所におけるライフライン確保等により、災害に強いまちづくりを進めます。

公共公益施設等の整備方針

- ・公園のトイレの水洗化やバリアフリー化を進めるとともに、ポケットパーク整備等により、ゆとりと潤いのある市街地形成を図ります。
- ・排水区域内の公共下水道整備を推進するとともに、市庁舎の移転、魚市場の整備、小中学校の統合、郷土資料館、公民館、総合保健福祉センターなどの機能の充実に努めます。



釜石西地区

釜石西地区の概況

- ・本地区は、釜石東地区西隣の甲子川中流域から上流域川沿いに位置しています。4地区の中では最も広い面積ですが、急峻な山々が迫り平地が少ないため、山林などを除いた可住地面積は狭くなっています。大橋地区は、安政4年（1857年）12月1日に我が国初の洋式高炉による出鉄に成功した地で、以来130年の歴史を誇る釜石鉱山があり、“鉄と魚のまち”としての発展を支えた地域の一つです。また、地区東側には新日鉄釜石のラグビー場があり、前人未到の全日本選手権7連覇の偉業を成し遂げた“釜石ラグビー”を支えてきた地域でもあります。
- ・地区東側は、かつての釜石街道の宿場として栄えました。現在では、幼稚園から高校までの教育施設や、陸上競技場などのスポーツ施設の整備された地域となっています。また、市街地の西進化の現象により、釜石東地区と接続した市街地が形成され、民間事業による新たな住宅地の供給が計画されています。地区西側は、農地が混在した奥行きのない市街地であり、鉱山の縮小により、社宅跡など一団の低未利用地もみられます。
- ・甲子川に沿ってJR釜石線が通っており、松倉、洞泉、陸中大橋の3つの駅があります。JR線と平行して国道283号が通っていますが、急カーブ、急勾配の区間と狭くて長い仙人トンネルがあります。また、現在東北横断自動車道釜石秋田線に含まれる仙人峠道路とインターチェンジの整備が進められています。



<主なデータ>

	釜石西	都市計画区域	市全域
人口(H12)	6,501人	41,521人	46,521人
世帯数(H12)	2,478世帯	16,144世帯	17,706世帯
人口増減率(H7-H12)	0.7%	5.8%	5.9%
高齢化率(H7)	22.6%	21.1%	21.4%
人口密度(H12)	1.1人/ha	2.5人/ha	1.1人/ha
単独世帯率(H7)	22.3%	23.0%	21.8%
住宅所有 (H7)	持ち家	67.6%	62.5%
	民間借家	9.6%	20.2%
	給与住宅	11.2%	7.5%
		65.4%	18.7%
		6.9%	

資料：国勢調査（H7、H12）
都市計画基礎調査



釜石西地区の主要課題

良好な居住環境の形成

本地区は、一体的な都市基盤整備が行われていないため、狭隘道路が多くみられるだけでなく公共下水道の整備も遅れています。今後、快適な住宅地の形成が求められています。

仙人峠道路などの幹線道路整備の促進

本市の広域幹線道路網として、東北横断自動車道釜石秋田線に含まれる仙人峠道路とインターチェンジの整備促進が求められています。また、良好な物流ネットワークを形成するために、インターチェンジから中心市街地や港湾とを結ぶ道路整備の検討も必要となっています。さらに、三陸縦貫自動車道と横断道とを結ぶ路線の整備促進も必要です。

地域資源を活用した魅力的なまちづくり

現在は「仙人秘水」の生産が行われている釜石鉱山、近代製鉄業の発祥の地、甲子宿場跡などの歴史的な資源も多く、また、山間部の入り口であるため眺めの良い場所も多くみられることから、今後地域のまちづくりに活用することが求められています。

自然環境と調和したまちづくり

甲子川や五葉山に続く山林等の豊かな自然環境に恵まれているため、これらを十分に保全し、次の世代へ受け継いでいく必要があります。また、甲子川沿いには市内でも有数の桜並木があり多くの市民に親しまれていることから、道路や散策路などの整備と桜の景勝とが調和した取り組みが求められています。

釜石西地区のまちづくりの目標

「自然と歴史に彩られた、うるおいのあるまちづくり」

釜石西地区のまちづくりの方針

土地利用の誘導方針

- ・仙人峠道路のインターチェンジ予定地周辺の土地利用動向を把握しながら、一団の低未利用地の土地利用を検討し、必要に応じて用途地域の変更などによる土地利用の誘導を図ります。
- ・地区内を流れる甲子川や市街地に潤いを与える背後の山林等、本地区に広がる豊かな自然の保全を図ります。

道路・交通システムの整備方針

- ・本市と内陸部を結ぶ仙人峠道路とインターチェンジの整備を促進するとともに、良好な物流ネットワークの形成を目指し、インターチェンジから中心市街地や港湾を結ぶ道路整備についても検討します。
- ・密集住宅地においては、生活道路の整備を検討します。
- ・甲子川沿いの遊歩道整備の検討とともに、幹線道路の歩道整備や横断歩道の設置等の交通施設整備を促進し、安全・快適な歩行ネットワークの形成を図ります。

都市景観形成の誘導方針

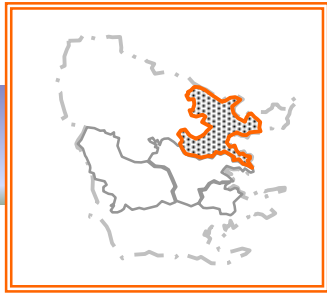
- ・地域住民の生活に配慮しながら、歴史資源を活かした景観形成を促進します。
- ・大橋地区において、釜石鉾山の持つ資源の活用などにより、市街地の入り口（ゲート）としての特色ある景観形成や、優れた景観を活かす展望スポットの整備について検討します。

住まい・まちづくりの誘導方針

- ・地区西側においては、農地と住宅が混在した緑の豊かな環境を保全しつつ、環境調和ゾーンとしての生活環境の向上を図ります。

公共公益施設等の整備方針

- ・自然環境にやさしいまちづくりとして、公共下水道、合併処理浄化槽等の生活排水処理施設の整備を促進します。
- ・周辺の環境などに配慮しながら、し尿処理施設の整備を進めます。
- ・公園のトイレの水洗化やバリアフリー化を進めるとともに、公園の適正な維持管理に努めます。



鵜住居地区

鵜住居地区の概況

- ・本地区は、釜石市の北側に位置し、大槌町と隣接しています。大槌湾と両石湾に面し、湾や入江を利用した箱崎漁港や両石漁港などの漁港が多くみられます。大槌湾には鵜住居川が流れ込み、下流には市街地が形成されています。本地区の大部分は山林で覆われており、リアス式海岸とともに自然の宝庫となっています。
- ・鵜住居川河口部やみのすけ沼周辺は、草花や水鳥など、数多くの動植物の観察を楽しめる自然豊かな水辺空間となっています。また、根浜海岸には、海水浴、釣、サーフィン、ヨット等のマリンスポーツを楽しむ人が数多く訪れています。根浜海岸にはマリナーもあり、また、毎年トライアスロン国際大会が開催されており、国内外から多くのアスリートが訪れています。
- ・国道 45 号が南北に通じ、鵜住居川沿いに遠野方面と結び東西に走る主要地方道釜石遠野線が T 字型に交わっています。また、国道 45 号に沿って J R 山田線が南北に通っています。
- ・地区内には、幼稚園、小学校、中学校、高校がそろっており、教育環境は比較的恵まれています。
- ・三陸縦貫自動車道の整備が鵜住居地区から始められているとともに、鵜住居地区内の生活道路の整備が進められています。
- ・本市で最も大きい総合公園の水海公園が地区内にあり、多くの市民が海と親しんだり、レクリエーションを楽しんだりしています。



<主なデータ>

	鵜住居	都市計画区域	市全域	
人口 (H12)	6,861 人	41,521 人	46,521 人	
世帯数 (H12)	2,371 世帯	16,144 世帯	17,706 世帯	
人口増減率 (H7-H12)	3.6%	5.6%	5.9%	
高齢化率 (H7)	17.9%	21.1%	21.4%	
人口密度 (H12)	1.6 人/ha	2.5 人/ha	1.1 人/ha	
単独世帯率 (H7)	14.9%	23.0%	21.8%	
住宅所有 (H7)	持ち家	71.2%	62.5%	65.4%
	民営借家	12.2%	20.2%	18.7%
	給与住宅	2.8%	7.5%	6.9%

資料：国勢調査 (H7、H12)
都市計画基礎調査



鵜住居地区の主要課題

安全・快適な道路整備

地区内や大槌町を含む周辺地域から釜石東地区へ通勤する自動車により、国道45号は、朝夕に慢性的な渋滞が発生していることから、通過交通の域外での誘導など、その対応が求められています。また、災害への対応も考慮した路線の複線化が求められています。

鵜住居駅地区の道路は、幅員が狭い道路が多い状況にあることから、住民の協力を得ながら整備の推進が必要です。

また、地区内道路の歩道が、狭くなったりしていることから、歩行者や自転車が安全・快適に通れる空間の整備が必要です。

片岸地区の土地利用（開発と自然環境の保全との調整）

片岸地区の広大な農地等の地域は、工業系の用途地域に指定されていますが、有効活用のための基盤整備を検討するとともに、産業施設の配置などを基本に地域の活力を生み出す土地利用と多様な動植物の生息の場としての保全と、市民が気軽に自然を楽しむ空間づくりの調整のとれた土地利用の検討が求められています。

マリンスポーツの充実

根浜海岸周辺には、海水浴などのマリンスポーツを楽しむ人が市内外から訪れ、トライアスロンの国際大会も開かれるなど、交流人口が多くなっていますが、更衣室や売店等の受け入れ施設整備を充実させ、貴重な海辺のレクリエーション空間としての充実が求められています。

鵜住居地区のまちづくりの目標

「豊かな自然とマリンスポーツの活力のあるまちづくり」

鵜住居地区のまちづくりの方針

土地利用の誘導方針

- ・片岸地区の工業系用途地域は、活用に向けた基盤整備手法の検討を進め、地域の産業振興等を目指した活用方法を地域の方々と協議を進めるとともに、みのすけ沿周辺の豊かな自然環境の保全や自然に親しめる空間の整備に努めます。
- ・根浜海岸周辺については、身近に自然と触れ合う空間、貴重な海辺のレクリエーション空間としての施設整備の充実を図ります。

道路・交通システムの整備方針

- ・国道 45 号の渋滞緩和を目指し、三陸縦貫自動車道の整備を促進します。居住しやすい地域環境の整備を図る生活道路の整備を推進します。また、渋滞解消に向けた取り組みの一環として、歩行空間の充実等や鉄道・バスなどの公共交通機関利用の促進を図ります。
- ・壁面後退等による道路の安全・快適な歩行空間の創出等について検討するとともに、市街地の生活道路における交通規制の強化やコミュニティ道路化の検討、横断歩道の設置等による安全施設の充実等を図ります。
- ・鵜住居川沿い等の遊歩道の充実を図り、快適で自然と親しめる歩行ネットワークの形成を目指します。

都市景観形成の誘導方針

- ・自然と親しむ散策路の整備や眺望を楽しめる箇所での展望スポットの整備を行い、自然と調和した美しい街並みの形成を図ります。

住まい・まちづくりの誘導方針

- ・生活道路整備等を契機として、住宅の建て替えを誘導します。

公共公益施設等の整備方針

- ・安心して暮らせるように、障害者福祉施設や児童福祉施設等の福祉関連施設の充実を図ります。また、消防鵜住居分署の整備も促進します。
- ・自然環境にやさしいまちづくりとして、公共下水道、集落排水施設、合併処理浄化槽等の生活排水処理施設の整備を促進します。



平田地区

平田地区の概況

- ・本地区は、釜石湾に面し、都市計画区域の南側に位置しています。平田漁港から山際の平坦部に古くからの住宅地が形成され、山間部には、大規模な上平田ニュータウンが整備されています。また、平成4年に三陸・海の博覧会の会場となった広大な平田埋立地があり、岩手県水産技術センターや(株)海洋バイオテクノロジー研究所などの研究機関や産業展開施設などが立地していますが、低未利用地となっている部分の活用が検討されています。
- ・三陸沿岸を南北に結ぶ広域幹線道路の国道45号が通り、また、国道45号と平行して三陸鉄道南リアス線が通っています。
- ・国道45号沿いには、平田総合公園（愛称：南リアス健康の森公園）が整備され、ナイター設備が整った野球場や多目的グラウンドがあります。また、上平田ニュータウンに隣接して、市内で唯一のゴルフ場もあります。
- ・リアス式の海岸線や、市街地を囲む山林等の自然が豊かな地区であり、自然景観を楽しむ場所も数多くみられます。
- ・地区内には、幼稚園、小学校、中学校（地区に隣接）、高校の立地や、スーパーマーケットやコンビニエンスストアなどがあり、コンパクトにまとまりがあり、生活利便性に優れていますが、古くからの住宅地では生活道路が狭く、下水道の未整備な状況となっています。



<主なデータ>

	平田	都市計画区域	市全域	
人口(H12)	3,774人	41,521人	46,521人	
世帯数(H12)	1,272世帯	16,144世帯	17,706世帯	
人口増減率(H7-H12)	0.4%	5.6%	5.9%	
高齢化率(H7)	12.5%	21.1%	21.4%	
人口密度(H12)	2.8人/ha	2.5人/ha	1.1人/ha	
単独世帯率(H7)	13.7%	23.0%	21.8%	
住宅所有 (H7)	持ち家	60.4%	62.5%	65.4%
	民営借家	9.2%	20.2%	18.7%
	給与住宅	4.7%	7.5%	6.9%

資料：国勢調査（H7、H12）
都市計画基礎調査



平田地区の主要課題

大規模な土地の有効活用

平田埋立地は、県水産技術センター、海洋バイオ研究所などの試験研究機関や産業育成センター、高級魚養殖に取り組む(株)サンロック、ミニ蘭の栽培をする企業など産業面での活用が行われています。しかし、広大な低未利用地があることから、産業を中心とした土地の有効活用が求められています。

また、平田総合公園に近接する板木山の採掘跡についても、産業や健康・スポーツなど多角的な有効活用の検討が必要となっています。

安全で快適な交通環境整備。

国道 45 号から上平田ニュータウンを經由して釜石東地区（源太沢）を結ぶ道路は、災害時の対応や国道 45 号と国道 283 号との連絡路として、また、平田埋立地の土地利用などの重要な役割があることから、早期整備が求められています。

また、国道 45 号は、中学校への通学路等として利用されていますが、歩道での歩車道区分用柵や地区内交差点の改良等による安全性の向上が求められています。

生活環境の改善

海岸に近く古くから住宅が建てられていた下平田地区では、住宅が密集し、狭隘道路が多く緊急自動車が入りにくい状況にあることや、下水道の整備など生活環境の改善が必要となっています。

また、上平田ニュータウンでの公園の整備や古くから住宅が建てられている地区での身近な公園等の整備が求められています。

豊かな自然環境の保全と活用

上平田ニュータウンの後背地の山林は、鹿・キジ・カッコウ等の動物が生息しており、紅葉等の彩りも美しいことから、国立公園に指定されている海岸部とともに自然環境の保全が求められています。

平田地区のまちづくりの目標

「自然と共生し、先進技術と産業が拓くまちづくり」

平田地区のまちづくり方針

土地利用の誘導方針

- ・平田埋立地での先進技術を導入した新たな環境型産業拠点の形成を目指した取り組みにより、土地の有効活用を図ります。また、平田埋立地を含む周辺地域の水際については、漁業などとの連携や調整を図りながら、海を眺め水辺に親しむ空間としての整備を検討します。
- ・板木山地区は、産業面での活用や平田総合公園を含めた健康運動施設の充実などを検討します。
- ・国立公園となっている海岸部だけでなく、市街地を囲み四季の彩りを見せる山林等の保全を進めるとともに、身近に自然に親しむ場所としての活用を図ります。

道路・交通システムの整備方針

- ・関係機関の協力を得ながら、国道45号から上平田ニュータウンを經由して釜石東地区（源太沢）とを結ぶ道路の整備を推進します。
- ・国道45号における歩道改良や交差点の改善等を促進し、安全で快適な道路環境の形成を図ります。

都市景観形成の誘導方針

- ・平田埋立地における整備では、本地区の新たな顔づくりとして、施設のデザインや色彩等に十分に配慮し、魅力的な景観形成を目指すとともに、電線地中化の規制誘導を検討します。
- ・都市計画道路の整備等を行う際に、建物の更新とともに良好な街並み景観の形成を図ります。また、優れた眺望などの保全やそれを生かす展望スポットの整備を検討します。

住まい・まちづくりの誘導方針

- ・住民の協力を得ながら、古くからの住宅地における狭隘道路の解消を検討します。

公共公益施設の整備方針

- ・下平田地区における下水道処理区域内の下水道整備を推進し、快適な住環境の形成を図ります。

